

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第73号(2013. 4. 1)
事務局川西地区自主防災会

9年間の防災講演活動の思い出

元香川県危機管理総局 防災指導監 乃田 俊信

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様におかれましては、平素から地域は勿論のこと、県下一円の防災・減災の要としてご尽力・ご活躍されており、心から敬意と感謝申し上げているところです。

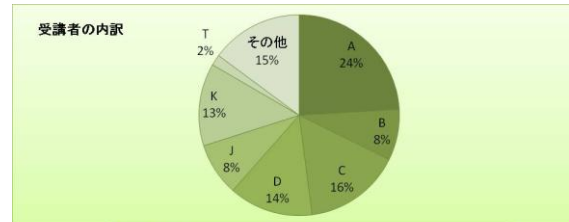
さて、私はこの度、平成25年3月31日付けをもって、県防災指導監の職を辞し、退職することとなりました。9年間にわたり、皆様方から賜りました暖かいご激励やご厚情に対し、心から深く感謝申し上げます。

思い起こせば、平成16年4月、陸上自衛隊を退官すると同時に香川県庁に入庁し、防災指導監（当時は防災対策主幹）として、地域防災計画の見直し・修正、各種防災訓練の計画・指導、国民保護に関する業務、自衛隊との連携強化などの業務の傍ら、県民の防災意識の啓発・高揚のための防災講演活動を続けてきました。

防災講演活動につきましては、着任早々の16年4月、真鍋前知事から直接、「香川県民は防災意識が低い。阪神・淡路大震災への派遣活動の経験など、県民の防災意識高揚のための講演をやってくれないか」と、依頼されました。

爾来9年間、講演回数は、昨年12月8日に500回を突破し、受講者は約44000人になりました。実施成果は、表1～表3の通りです。

平成16年の相次ぐ台風・高潮災害、中越地震・スマトラ沖の大津波や平成23年の東日本大震災の後などは講演回数が増え、県民の防災への関心の高まりが見られますが、反面、「喉もと過ぎれば熱さを忘れる」ではありませんが、時間



記号	区分	内訳
A	一般市民	高齢者・女性教室、図書館・コミュニティ講座等
B	市民グループ・団体	ロータリー・ライオンズ、政党団体、商工会議所等
C	市町主催行事	防災訓練、講習会
D	県主催行事	県各部署・危機管理課・出先機関、教育委員会等
J	自治会・自主防災会	
K	企業等	
T	他省庁・公共団体等	
その他	その他	

の経過と共に「関心」も薄らいでいくことも見て取れます。

ここで、私が今までの講演で強調してきたこと（乃田語録）を紹介いたします。

①「**備えあれば憂いなし**」とは

「備えあれば憂いなし」という言葉は、皆様十分ご存知の通り「平素から、危急の場合を考えて十分に備えておけば、いざというときになっても心配はない」という意味であるが、実は三段論法になっていて、

- a 何もない今、危機のことを思うことが大切（最初）です
- b 思えば、きっと備えるでしょう。
- c 備えをしっかりとすれば、安心でしょう。

ということです。ですから、先ず「思う」ことからスタートです。思わなければ、決して、「備えを実行しない」のです。

②「**百年兵を養うは、これ一日のため**」（会報第36号に掲載：略）

③「**正しく怖がる**」ことが最も重要

明治の物理学者・寺田寅彦が、私たちに3つの警告を残しています。その1つに「ものを恐がらなさ過ぎたり、恐がりすぎたりするのはやさしいが、正當に（正しく）怖がることはなかなか難しい」といっています。

私はこの「正しく怖がる」ことができないことが、「備え」を実行しない最大の原因だと思っています。

「正しく怖がる」ということは、危険の度合いを正しく認識することであり、そのためには、「その時、どんな状況になるのか？」をしっかりとイメージ・アップすることです。

④「**まさか**」から「**もしかしたら**」へ意識改革を！・・・「当事者意識を持つ」

人間の基本心理（正常化の偏見）から、自分や自分の家族が災害や事故になどに巻き込まれることを否定しようとする傾向があります。ですから「自分だけは災害に遭わない（と心の中で思い込んでいる）」のです。

南海地震が間近に迫っている昨今、今まで「まさか」と思っていたことを、これからは「もしかしたら（自分や家族が災害に巻き込まれるかもしれない）」と、意識改革して欲しいと思います。

⑤「**危機管理は最悪の場合を想定**」することが原則。・・・その真意は？

東日本大震災が発生したとき、「これは想定外の地震・津波」といわれました。しかし、想定外とか考えてもいなかったと言っても、それで許されるわけではありません。

危機管理は最悪の場合を想定しておくことが原則です。「最悪の場合を想定して十分に備えていたが、結果は大したことはなかった。何だ、空振りか！」。でも空振りはいいのです。しかし、大したことはないだろうと勝手に判断していて、それ以上の災害に遭うと、取り返しのつかないことになるのです。

では、最悪ということで香川県でも10m、20mの津波を想定しておかなければならないのか？ いえいえそうではありません。ここで言う「最悪の場合」とは、その地域で起こりうる最悪の場合を想定することです。

⑥ 「生と死は紙一重、しかし、結果は雲泥の差」

東日本大震災の惨状やその後の紀伊半島や北九州での土砂災害などを見て、「生と死は紙一重」と感じられた方も多いことでしょう。一方、結果としての「生と死」は雲泥の差があります。ですから、私たちはなんとしても生き残らなければなりません。一人一人がそれぞれの立場で「自分の命を大切にする」、その積み重ねが防災の原点であると思います。

⑦ 「命に係わること」から優先して備える：（略）

（特に説明を要さないでしょう）

⑧ 津波対策のキーワード：「知る」と「逃げる」

津波対策においては、先ず津波がどんなものかを「知る」ことが第一です。津波の特徴特にその破壊力・速さ、また、第一波が最大とは限らず、東日本大震災のように第二波・第三波の方がずっと大きくなることもあるということも知っておかなければなりません。また、地域毎の津波被害の危険度、特に浸水予測・予想到達時刻等を知っておかなければなりません。第二は、迅速・確実な避難、すなわち「逃げる」ことです。先ず地域の特性に応じた避難要領を承知し、避難場所・避難経路等を整備しておく。そして、津波避難計画を策定し、避難訓練をしっかりとっておくことです。

⑨ 「天災は、忘れた頃にやってくる」とは

この言葉は明治の物理学者・寺田寅彦の言葉と言われておりますが、この警告の意味は「天災は、前の災害を忘れるくらい、しばらく期間をおいて起きる」という意味でしょうか？ 私は違うと思います。「忘れた頃」とは「期間とか時間の経過」ではなく、「忘れた状態」をいうと思います。すなわちその意味は、「天災は、過去の災害の体験や教訓が風化し、油断が生じた頃に大きな被害をもたらす」ということで、油断や心の緩みを戒めた言葉だと思います。

防災を考えるとき、もちろん対象（敵）は自然災害であるが、もしかすると最大の敵は「自分の心の中（油断）」にあるのかも知れません。

⑩ 地震は避けられないが、震災は避けられる（減災はできる）：（略）

終わりに、この度県庁職員は退職いたしますが、防災活動は続けていこうと思っております。もし講演等のご要望がございましたら、お気軽にお申し付け下さい（090-3261-3743）。

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様には、大変お世話になりました。重ねて厚くお礼申し上げますとともに、貴会のますますの充実・ご発展を心からご記念申し上げます。

（了）

離任のご挨拶

元香川県危機管理総局長 伊勢野 正憲

このたびの人事異動により、商工労働部に異動することになりました。危機管理総局勤務は、わずか1年と短い期間ではありましたが、その間、皆様方には大変お世話になり、心からお礼を申し上げます。

さて、東日本大震災では2年が経過しました。この大震災を「山河破れて国あり」と言う人がいます。つまり、「自分たちの寄る辺となる山河は崩壊したが、国はある。しかし、不思議なことに、国の姿が見えてこない」と言っています。自然の力が人間の想定をはるかに上



回ることは抽象的には理解していても、現実があまりに衝撃的であり、私たちの判断基準の枠外の出来事となってしまったわけです。しかし、想定幅が広がった現在、災害予防・災害応急対策等で、私たちが取組むべき対策の幅も広がったわけです。大事なことは、3月11日を決して忘れることなく、自然と向き合い、共に生きることだと思います。

私は、別の部署に異動しますが、行政に携わるものとして、また、この日本に住むものとして、微力ではありますが、防災・減災対策に取り組んでまいりたい所存です。どうぞ、今後ともよろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、「かがわ自主ぼう連絡協議会」の今後、益々のご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げます。

元香川県危機管理総局危機管理課 政策主幹（兼）副課長 三好謙一

このたびの人事異動により、廃棄物対策課資源化・処理事業推進室で勤務することになりました。東日本大震災を受け、平成23年5月16日付けで危機管理課に配属となって、2年弱の短い期間ではありましたが、防災対策の総点検、地域防災計画の修正、災害時情報収集・伝達体制の整備や地震・津波被害想定の見直しなど、振り返ってみれば、私にとって、本当にあわただしかった反面、非常に充実した2年弱であったと思います。

さて、改めて命の重さを認識させられた東日本大震災によって、安全・安心への対応は、県政の喫緊の課題となっており、「安心できる香川づくり」のため、防災・減災対策を着実に推進するとともに、暮らしやすい、災害は少なく、住みやすさを実感してもらえる取り組みを進めていかなければなりません。

そのなかでも、地域防災力の向上は重要な要素となるものであり、昨年度創設した小学校区等を単位とした実践的な訓練を行う自主防災組織への助成制度等をご活用いただき、さらなる組織の結成促進や対応力の充実強化につなげていただきたいと考えておりますので、「かがわ自主ぼう連絡協議会」の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

このような中、私は2年弱という短い期間で危機管理課を去ることとなりましたが、皆様のごこれまでのご尽力と本県の防災行政へのご協力に深く感謝を申し上げますとともに、協議会の今後益々のご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

離任のご挨拶

元香川県危機管理総局危機管理課副主幹

河野 祥幸

4年間、大変お世話になりました。

東日本大震災からはや2年が過ぎました。協議会の皆様におかれましては、この大震災を教訓に、各組織のリーダー育成や自主防災組織間の相互連携など、地域防災力の向上に向けて一層積極的に活動されており、防災に携わるものとして深く敬意を表しますとともに、ひとりの地域住民として大変勉強になりました。他部局への異動となりますが、今後も、防災への意識を高く持ちつつ、取り組んでまいりたいと思います。

最後になりましたが、協議会のますますの発展と、皆様の御活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

元香川県危機管理総局危機管理課副主幹

定浪 裕紀

昨年4月に配属となり、1年間という短い期間ではありましたが、皆様方とは防災訓練等で一緒に活動させていただきました。

特に昨年9月の県総合防災訓練では、皆様方のご活躍に感服し、自分の至らなさを反省するとともに、日ごろの訓練等の積み上げがいかに大事かを痛感したところであります。残念ながら、1年で別の部署に異動となりますが、この1年間で培った経験を生かし、微力ではありますが、地元での様々な活動にも積極的に参加するなど、防災・減災に少しでも役立てるよう日々取り組んでまいります。

最後になりましたが、かがわ自主ぼう連絡協議会の今後益々のご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を心よりご祈念申し上げます。

元香川県危機管理総局危機管理課副主幹

藪木 泰伸

平成21年10月に配属となり、3年半の業務の中で、自主防災組織の育成強化や総合防災訓練に携わったこともあり、岩崎会長さんをはじめ、協議会の皆様には、研修会や訓練にご協力いただくなどたいへんお世話になりました。

一昨年3月11日に発生した東日本大震災は、広大な地域に甚大な被害をもたらしましたが、地域の安全を住民が互いに助け合って守る自主防災組織の重要性を改めて認識させられました。

皆様方の活動は、全国に誇れるものだと思っています。かがわ自主ぼう連絡協議会の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。

元香川県危機管理総局危機管理課主任

横井 孝博

4年間という期間でありましたが、皆様方には大変お世話になりました。

皆様方とは防災訓練、自主防リーダー研修等を一緒に活動させていただき、多くのことを勉強させていただきました。

4月からは土木部へ異動となりましたが、土木部でも、毎年やってくる台風、突然やってくる地震に対して、この経験を活かし、そして皆様方と協力しながら、災害対応、減災事業に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともご指導のほどよろしくお祈りいたします。

最後になりましたが、協議会の今後益々のご発展をお祈りいたします。

事務局だより

平成25年4月

かがわ自主ぼうの事務局より、最近の活動を紹介します。

外部評価委員に選任されました

平成24年度、大学改革推進事業の一環として、香川大学、徳島大学において、「四国防災・危機管理特別プログラム共同開設による専門家の養成」事業を平成25年度から開始しますが、その外部評価委員の1人として、かがわ自主ぼうを代表して、岩崎正朔が選任されました。外部評価委員は次のとおりです。

外部評価委員名簿

※敬称略

	所属	役職	氏名
1	NPO法人日本防災士機構	専務理事	玉田 三郎
2	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 NPO法人事業継続推進機構	上席主席研究員 副理事長	指田 朝久
3	国土交通省 国土交通政策研究所 NPO法人事業継続推進機構	政策研究官 副理事長	丸谷 浩明
4	国土交通省四国地方整備局	企画部長	石井 一生
5	公益社団法人 土木学会四国支部	商議員 (一般社団法人日本建設コンサルタント協会四国支部長)	武山 正人
6	(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構	人と防災未来センター研究部長	村田 昌彦
7	一般社団法人 日本集団災害医学会	評議員	近藤 久禎
8	四国経済連合会	専務理事	三木 義久
9	かがわ自主ぼう連絡協議会	会長	岩崎 正朔
10	高知大学総合研究センター	教授	笹原 克夫
11	鳴門教育大学地域連携センター	教授	阪根 健二
12	愛媛大学防災情報研究センター	地域防災システム研究部門長 教授	松尾 芳雄
13	愛媛県 県民環境部 防災局	局長	中村 博之
14	高知県危機管理部	危機管理部 部長	高松 清之

本年度最後の役員会

3月30日(土)午前10時より、高松サンポートe-とびあ・かがわ4F会議室において開催され、平成25年度の主要な取組み並びに役員体制などを議論させていただいた。総会の日程を5月11日(土)に開催することを決定して、閉会した。



編集後記

今月の防災減災の輪は、香川県危機管理総局 防災指導監 乃田様より原稿をお寄せいただきました。ありがとうございました。